

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	25	利用者のケア内容が計画作成担当者を中心に検討されており、担当職員の業務が特定のものだけに限定されてしまっている。	担当職員と計画作成担当者が協力してアセスメントを行うことにより、広い視野でケア内容を見ると共に、より具体的なケアの改善を行いたい。またその経過の中で職員のアセスメント力及び解決力の向上を図りたい。	アセスメントに取り組むための手掛かりとして、現在使用しているものを少し簡略化した形で情報収集のためのシートを作り、利用開始時や定期的な状態確認に使用する。担当職員を現在の一人1～2名の形だけでなく、正規職員1名につき3名を担当する形態とし、計画作成担当者と情報を話し合う機会を作る。また、そこで浮き彫りになった課題や担当利用者のケアをもっと良いものにするために改善を図ることで問題提起力並びに解決力を向上するための基礎とする。	24 か月
2	33	長年グループホームで生活している中で、ホームでの看取りを希望される方が多くなっており、今までグループホームで行ってきたケアや生活の中で自然な看取りの流れの理解と、経過の中で必要になる重度介護や医療に関する知識や技術に個人差が大きい。	グループホームでの看取りについて、ホームとしての看取りについての方針や家族の想いを職員で統一して理解が出来るようになる。また重度介護や医療に関する最低限の知識を学ぶ機会を持ち、看取りケアに向けて全員が前向きに取り組むことが出来るようになる。	グループホームでの看取りについて、多くはないが事例を元に話し合いを重ねることでホームとしての看取りについての方針や家族の想いを職員で統一して理解が出来るようになる。またケアを行う中で必要になる重度介護の技術や医療知識について、職員自身にも確認をしながら必要な研修を実施できるようにする。外部研修や講師の派遣を活用し、事業所の職員として看取り期の利用者や家族とどう関わるべきか、考え方やコミュニケーションの方法についても学習する機会を持つ。	12 か月
3	11	年4回の火災想定・地震想定避難訓練を実施する中で、出来るだけ実情に沿った訓練にしたいと計画して火元を知らせずに実際に探してもらう訓練などに取り組んでいるが、実際の火災や地震を想定するとまだまだ不足している内容も多い。	避難誘導の方法や連絡網の実施など、今以上に具体的な訓練となるように計画し、いざという時に思い出して体が動くようにしたい。年間の訓練回数には限界があるが、シミュレーションの機会を作るなどして夜勤を行っている職員は全員が夜勤想定避難手順を実際に動きながら確認できるようにしたい。	マットレスや担架を使つての搬送訓練、車椅子で階段を上げる訓練を体験する。火元によってどう避難経路を設定するかなどの訓練は、事例を使って個別に空いた時間を活用して実施してもらう。夜勤を行っている職員は全員年1回、火災を想定して避難手順のシミュレーションを行い、自主防災委員の立ち合いの元で実際の動きや確認手順を行う。	12 か月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。